

「全鍍連」 2021年5月号 理事長のよこがお

埼玉県鍍金工業組合 理事長 黒澤 久 (スリーケ株) 代表取締役会長)

「正常な上下関係とは」



精神を病んで学校を休んでいる教師が全国に1000人以上いるという。過労で病気になった人もいるだろうが、多いのは生徒による先生のいじめ、過日話題になった先生同士のいじめが多いと聞く。会社でも上司から部下へのいじめ、部下の上司へのいじめ等が組織の要の上下関係を壊してしまう。

中小企業は米国の契約社会と違い上司と部下は人間として向き合っていると思う。礼儀、忠誠心、連帯感、等古くからの日本の習性も生きていると思う。米国は契約・ルール一辺倒だが日本ではさらに体面・メンツ・好き嫌い・尊敬軽蔑等人間の心の感性が係ってくる。

お互いに相手をどうゆう人間かを見ている。嫌な上司の言うことは身を入れて仕事をしない、いやな上司にきつく指導されるとパワハラだと訴える。上司に叱られたら鍛えられる事、乗り越えて人は成長する。それをパワハラだと言って逃げたり、反抗したらいつまでたっても一人前になれないと思う。

学校での運動部のコーチは部員を指導できなくなった。過激な暴力はもちろん厳禁だが「帰れ」「辞めちまえ！」などの精神を叩き直す暴言も許されない。未熟な部員の方が尊重されるので、チームはお遊びクラブに成り果てる。PTA 学校、マスコミが部員の肩を持ちコーチは犯罪者扱となる。熱血指導の監督コーチは絶滅した。

中小企業でも来年令和4年4月から「パワハラ防止法」が施行される。重大行動には一定程度強く注意する行為はパワハラには該当しないとしている。しかしセクハラと同じく受けての感じ方である。親にも先生にも叱られたことがない部下にパワハラだと訴えられたら労働監督署もそれを認め上司の反論も聞かない。

また、部下による上司へのいじめもある。上司の指示に「わかりました」と言ってもただら行ったり、遅れたり、報告等しない。上司も気づいていても強く指導する事が出来ない、訴えられたら自分が危なくなる。上司の方がいじめをされるより辛い。

組織の中ではよく育てられ、よく鍛えられた人の自主性は光るが、半人前社員の自主性は会社が、そのわがままに翻弄され社内が乱脈になり無駄がはびこり生産が落ちるのは目に見えている。弱者優遇の会社となり社長や上司より入社数年の若い社員の「自己の権利」の方が優先されてしまう。

だからと言って上司は部下の要求を盲目的に聞くことはない。上司は信念をもって部下のわがままと戦わなければならない。

「働き方改革」や「パワハラ防止法」は社員には幸福をもたらす打出の小槌である。が、会社や経営者にとっては不幸をもたらす悪魔のささやきにさえ感じてしまう。